

蒲島県政2期目がスタートした節目の年。1期目で、県債を約1千億円減らし、基金を上積みするなど、財政再建に一定の道筋をつけ、将来を見据えた投資の財源を確保。2期目は、スタート後わずか2カ月で「新4カ年戦略」を策定するなどスピード感を持って県政を進めてきた。

今年の10大ニュースは、「県民が幸せを実感できるくまもと」の実現に向けて取り組んだ出来事、逆境の中にあっても将来に向けて夢や希望を与えた出来事、県政課題の解決に向けて創造的・果敢に進めたものを選んだ。

- ◎「7. 12熊本広域大水害が発生。被災地の復旧・創造的復興が進む」
～死者・行方不明者25名、住家被害3,409棟など甚大な被害。被災者の痛みの最小化など3原則の下、「チームくまもと」として、迅速な復旧・創造的復興を進めている～
 - ◎「約4万3千人が水俣病被害者救済を申請」
～7月末に特措法に基づく救済申請受付が終了。現在、対象者の早期確定に向け全力～
 - ◎「政令指定都市『熊本市』が誕生」
～九州における拠点性向上へのビッグチャンス到来。州都を目指す議論にも弾み～
 - ◎「県経済の『活力』向上を目指した新たな取組みを展開」
～本田技研工業熊本製作所に研究開発部門の誘致が実現するなど、不況の年にもかかわらず誘致件数は28件。農業への企業参入も相次ぎ、農業の可能性が大きく広がる～
 - ◎「アジア市場をにらんだ拠点を整備」
～熊本上海事務所、熊本広西館を相次いで開設。さらに、熊本港でのガントリークレーン設置と国際定期便の週2便化が実現～
 - ◎「未来型エネルギーのトップランナーを目指した取組みが加速」
～全国に先駆けて総合エネルギー計画を策定。メガソーラーは18件立地、地熱・温泉熱の研究開始など未来型エネルギーの導入に向けた動きが拡大～
 - ◎「『熊本型』ヘリ救急搬送体制スタート」
～ドクターヘリの運航開始。防災消防ヘリとの2機体制により、救急現場出動と病院間搬送の役割を分担させた「熊本型」ヘリ救急搬送体制を構築～
 - ◎「『熊本の宝』磨き上げ進む」
～全国で初めて「地下水」を『公共水』と位置づけ、大口取水の許可制等を導入。「加藤・細川の歴史・文化」や「阿蘇の草原」維持に関する県民の関心も大いに高まった～
 - ◎「荒瀬ダム本体等撤去工事の開始」
～我が国初の本格的なダム撤去工事に着手、先駆的事例として全国が注目～
 - ◎「くまモン今年も大活躍」
～初めて全国版CMIに登場。今年上半期のくまモン利用商品の売上高は118億円を突破～
- (プラス1項目)
- ◎「バドミントン藤井・垣岩両選手への『県民栄誉賞』、ゴールボール浦田理恵選手への『くまもと夢づくり賞』贈呈
～ロンドンオリンピック・パラリンピックでの活躍は、県民を勇気づけ、夢と誇りを与えた～